

英語科 中学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	Let's Start	ア、イ、ウ、	5(+1)	小学校での外国語活動の既習事項を想起させることで、中学校英語への円滑なスタートができるように、十分な練習を行わせる。 校内のものを紹介したり第三者を友人に説明したりすることを通して、三人称の概念をとらえさせ、一般動詞への学習につなげていく必要がある。	5年生 ・「世界の『こんにちは』を知ろう」 ・「数で遊ぼう」 ・「外来語を知ろう」 ・「クイズ大会をしよう」	○音声重視の基本的表現について、小学校での学習を通して慣れ親しんできているので、大きな声で表現する喜び、友達と英語でコミュニケーションを図る喜びを大切にすること。 ○言語活動を活発にさせるために、ゲームなどのパターンを早いうちに身につけさせる。 ○doorとドアのようにカタカナ英語との発音の違いを知らせる。		◆小学校英語から中学校英語へのスムーズな橋渡しができるようにする。音声中心の学習とは違い、文字を書く学習が始まることを知らせて心構えを作っておく
	Program1 アルファベットに慣れよう (1) アルファベットの文字と音の一致 (2) アルファベットの音と単語との関係 (3) 大文字と小文字の違いに注意した練習 (4) アルファベットの確認 Classroom English	ア、イ、ウ、エ	5(+1) 1	アルファベットの大文字、小文字を英文字と音読みが一致できるように、十分に練習を行なわせる。	5年生 ・「アルファベットで遊ぼう」 6年生 ・「いろいろな文字があることを知ろう」	○アルファベット読みから音読みまで正しく発音できるまで根気よく指導する。 ○Classroom English では、どのような場面で使用する表現であるかを、実際に体を動かし、英語で動作を考えたい。また音声面での導入を重視したい。 ○実際に全体で動作をさせながら練習し、イメージで捉えさせる。	2学年 ・「英語をつかってみよう」	■アルファベットはビンゴやゲームを利用して楽しく学習させる
5	Program 2 アメリカからの転校生 (1) 自分や相手の名前が言える。 (2) 相手がどんな人かたずね、それに対して応答する	ア、イ、ウ、エ	5(+1)	be動詞を用いて、簡単な自己紹介、相手確かめる、あいさつをする、質問をする、といった基本的な内容が言えて書けるようになる。	5年生 ・自己紹介をしよう ①自分の名前を言う ②自分の名前・名刺交換	○一人称、二人称にふれ、Be動詞を使い分け、名前も言えるようにする。 ○英語の姓名の言い方は、名、姓の順番であるが、最近は、姓、名の順で述べ、日本文化を国際化する傾向もある		■CDに合わせてパラレルリーディング、シャドーイング ■名前を尋ねるインタビューゲーム
	Power Up Writing 1 単語・文の書き方	エ	1			○ピリオドやコンマの使い方、文は大文字で始めることなど英文の基本的ルールについて常に注意を払うように指導する。		
	Word Web 1 数の言い方	イ	2(+1)	0から99までの数と、100以上の数が言い表せる。 年齢や電話番号など数字を含む言い表し方ができるようにさせる。	5年生 ・「数であそぼう」 ◎1から20までの数を学習する			

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
5	Program 3 ウッド先生がやってきた (1)自分の好きなことや、ふだんすることが言える。 (2)相手の好きなもの、好きでないものをたずね、それに対して応答する	ア、イ、ウ、エ	5(+1)	like や play など思いや動作を表す動詞を用いて、自己紹介や対話ができるようにさせる。 be 動詞と比較しながら一般動詞を用いて、自己表現や質問をしたり答えたりする基本的な力を身に付けさせる。	5年生 ・「自己紹介をしよう」 ◎好きなもの、きれいなものを表現する ・「いろいろな衣装を知ろう」	○自分の好きなことを相手の好きなものなど、口頭練習や書く活動を通して基本的な表現を定着させる。 ○一般動詞の働きを理解し、正しい語順で話したり、書いたりできるように、口頭練習および書く練習に繰り返し取り組ませたい。		■自己紹介インタビューゲーム
	アクションタイム	ア、イ	1		5年生 ・「ジェスチャーをしよう」	○指示をよく聞いて体を動かすことによって、実践的に楽しく英語を学ぶ		■ペア、グループでジェスチャーゲーム ■Simon Says ゲーム
	Ward Web 2 曜日の言い方	イ	1(+1)	「曜日」の歌を導入し、順番を理解させ、日常使っている時間割作成につなげる。	5年生 ・「時間割をつくろう」 ◎何曜日の時間割か考える	○曜日を順番ではなくばらばらに言うことによって定着させる		
6	Power Up Listening 1 転校生ダニエルへの質問	エ	2		5年生 ・「自己紹介をしよう」	○視点にそって内容が聞き取れるように、メモをとったり、注意して聞くよう意識させる。		
	Program 4 リサイクル活動 (1)相手に何をするかたずね応答する。 (2)複数形の表し方 (3)数のたずね方と答え方	ア、イ、ウ、エ	7(+1)	疑問詞 what, how many と複数の表し方が新出である。十分な対話練習を行い、応答のしかたにも慣れさせる	5年生 ・「時間割をつくろう」	○日常生活を通しての質問とその答え方が大事なので、自分の考えや意見を述べることへの、第一歩となるので、丁寧な机間指導を行いたい。		
	My Project 1 自己紹介	ア、イ、ウ、エ	4(+1)	一般動詞を用いて関心のある事柄（スポーツや音楽など）についての情報を含めた簡単な自己紹介や質問したり答えたりすることで表現する能力を高める。	5年生 ・「自己紹介をしよう」 ◎好きなもの、きれいなものを表現する	○これまでに学んだ表現から自己紹介に使える文をさがすことによって既習事項の復讐をさせたい。 ○発表はできるだけ見ないで言えるように十分練習させる。		■スピーチ原稿を完成させてから、声の大きさ、発音、アイコンタクトなどを意識して発表。
	Power Up Reading 1 英語の掲示。標示など	ウ	1		6年生 ・「オリジナルの劇をつくろう」	○日常生活でよく見る標識などから命令文、禁止の表現などを理解させる。	2学年 (must not～を使った表現) ・Charity Walk	■ペアになってお互いにジェスチャーや意味の確認を行う
7	Program 5 国際フードフェスティバル (1)友達や身の回りの物の紹介や応答 (2)物がある場所のたずね方と答え方 (3)3人称単数の表し方	ア、イ、ウ、エ	7(+1)	疑問詞と be 動詞を用いた疑問文、および疑問詞と一般動詞を用いた疑問文が新出する。十分な口頭練習を行わせ、正しく書けるところまで定着を図りたい単元である。	5年生 ・「クイズ大会をしよう」 6年生 ・「道案内をしよう」	○三人称の概念と主語を省略して話されることが多い日本語との違いに触れながら、主語と Be 動詞の関係を理解させ定着させる必要がある。	B e 動詞の現在形を用いる表現 2学年 be going to 3学年 受け身	
	Power Up Speaking 1 時刻のたずね方と答え方	イ	1(+1)	現在の時刻についてスムーズに質問したり、答えたりできるようにさせる。	6年生 ・「自分の一日を紹介しよう」	○時間を見て即座に答えられるように練習を繰り返し、できるだけたくさんの人と問答する。		■ペア、グループで Q&A を繰り返し即座に答えさせる

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
	英語のしくみ 1	エ	2			○既習内容をふりかえり定着へと導く。		
9	Program 6 由紀のイギリス旅行 (1) 3人称単数現在形 (2) 3人称単数現在の疑問文 (3) 3人称単数現在の否定文	ア、イ、ウ、エ	7(+1)	第三者に関する情報を伝える表現を身に付けさせ、文法事項を確実に理解させる。 三人称単数現在形を用いた応答の文や否定の文の形に慣れ、他の人がすることを言えるようにさせる。		○小学校の英語活動では、三人称の入った表現をあまり用いないので三人称についてしっかりと理解させる。 ○はじめのうちは間違いにこだわらず、大きな声で発表する喜び、友達と英語を交わす喜びを大切にす。		■音読練習、グループ発表、個人音読テスト ◆3人称単数現在形の肯定文、疑問文、否定文の形を正しく表記する
	Ward Web 3 月の名前と順番を表わす言い方		1(+1)	月の名前と序数の発音に慣れ、日付や自分の誕生日を言えるようにさせる。	6年生 ・「友達の誕生日を知ろう」	○毎時間今日の日付を言ったり、ノートに書いたりすることを習慣化し、繰り返して定着させる。		
10	Program 7 Dilo the Dolphin (1) 人の名前等をたずね方と答え方 (2) 人について「～に」「～を」という言い表し方 (3) 時をたずねる時の言い表し方	ア、イ、ウ、エ	7(+1)	第三者に関する情報を伝える表現を身に付けさせ、文法事項を確実に理解させる。 いつ物事を行うかたずねる基本的な表現を理解させ、実際に使えるようにさせたい。	6年生 ・「友達の誕生日を知ろう」	○代名詞の使い方は絵や写真を示しながら、あまり意識しすぎないで入っていけるように工夫する。 ○この課はまとまった量の英文なので、事前に大意を質問するなど、徐々に個人で読解できるように進める。		
	Power Up Speaking 2 持ち主を尋ねる言い方	イ	2(+1)	which やwhose を用いた応答に慣れさせ、使えるようにする。		○定着をはかるために、音読練習やペアでの練習を繰り返させる。		■生徒が質問し全体で答える活動
	Power Up Listening 2	ア	2			○音のつながりに注意して言う練習をする。		■数文のディクテーション ◆まとまった英文の聞き取りに慣れさせる。
	英語のしくみ 2	エ	2(+1)	代名詞の変化、および3人称単数現在形の振り返りをし、確実に定着させたい。		○既習の本文の中からこれらの文法事項が含まれた文を探して復習させる。		
11	Program 8 Onigiri (1) できることを言える。 (2) できることのたずね方と答え方 どのようにするかたずね方と答え方	ア、イ、ウ、エ	6(+1)	動詞 can の特徴をつかみ、上学年での助動詞の学習につなげたい単元である。 自分ができること、できないことを表現し、さらに相手と問答することに慣れさせる。	6年生 ・「できることを紹介しよう」	○友達と楽しくコミュニケーションを図ることによって、実際に使えるようにさせる。		■音読練習の後、暗唱する
	Power Up Speaking 8 依頼・許可を求める言い方	イ	2			○ドアや物を使ってスキットを演じ、イメージさせる。		◆依頼と許可の意味の違いをしっかりと理解させる。
	My Project 2 人の紹介	イ、エ、オ	3(+1)	構想を練ってから既習の表現を使ってスピーチ原稿を作成する。発表の仕方、聞き方のポイントを押さえる。		○構想を練るマッピングの指導を十分に行う。辞書を使って、使えるような表現を見つけ出すことにも挑戦させたい。	2学年 ・「将来の夢を語ろう」	■人を紹介する Show & Tell の発表

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1 2	Program 9 A New Years Visit 現在進行形疑問文と答え方:	ア、イ ウ、エ	7(+1)	現在進行形は上学年での学習する過去進行形、現在分詞の後置修飾につながる大切な文法事項である。		○導入では実際に動作を示して現在進行形の意味を理解させる。 ○～ing 形に慣れさせるために、十分な口頭練習と書く練習をし、スモールステップを大切にされた指導が必要。	2学年 過去進行形 ・Did you Enjoy Your Vacation? 3学年 現在分詞の後置修飾	■グループで配役を決めてスキットに取り組ませる。
	Power Up Reading 2	ウ	1			○既習の表現に気付かせ、内容がつかめるように教師が援助する。		
1	英語のしくみ 3	エ	2			○既習の本文から、これらの文法事項を含む文を探して復習させる。		◆なるべく自力で内容が理解できるようにさせたい単元である。
	Program 10 Mike's Visit to Washington (1) 過去形 (2) 過去形の疑問文と答え方 (3) 理由のたずね方と答え方	ア、イ、 ウ、エ	7(+1)	・過去形が新出する単元である。上学年で学習する過去分詞にもつながる内容であるので、動詞の変化に慣れさせたい単元である。		○既習事項である現在形との意味の違いを理解させた上での、十分な口頭練習が必要である。 ○自己表現や友達とのコミュニケーション活動を通して実際に使えるようにさせたい。	2学年 Be 動詞の過去形 3学年 受け身、現在完了形 過去分詞の後置修飾	■手紙文はスキマーなしで、辞書を使って自力で読ませる。
2	Power Up Speaking 4 買い物①	ア、イ	2			○繰り返し音読練習や対話練習した後、実際に演じてみることで定着させる。	2学年 ・「買い物に誘う」 ・「ハンバーガーを注文する」	■ペアでスキットを発表
	Power Up Listening 3	ア	1(+1)	まとまった英文の聞き取りに慣れさせる。		○質問をしたり、それに答えたりできるようなクイズを実際にやってみる。		■質問して絵を当てる推測ゲーム
	My Project 3 どんどん質問しよう	ア、イ	4(+1)	今まで学習した疑問文を総復習し、言える文にチェックしながら何度も繰り返して、会話の基礎を固めたい。		○日常的に利用頻度が高いので、ペアでやり取りを繰り返すことによって意識しないで言えるようにさせたい。		■・クイック Q&A ・warm up の時にペアで活動
	Program 11 (1) 不規則動詞 (2) 不規則動詞の疑問文とその答え方	ア、イ、 ウ、エ	7(+1)	不規則動詞の過去形と既出の規則動詞の過去形の違いを理解させ、疑問文の作り方や答え方もスムーズにできるようにさせたい。		○過去形の疑問文を使って友達とコミュニケーションを図り、過去形の疑問文に慣れさせたい。 ○1年生のまとめとして教科書の音読にしっかり取り組ませる。	2学年 ・Did you Enjoy Your Vacation? ・「英語のしくみ1」	■・過去形を使ったインタビュー活動 ・感情をこめて本文の音読発表
	Power p Writing 2 日記①	エ	2(+1)	動詞の過去形の使用場面を意識させ取り組ませたい単元である。 日記や手紙、自己紹介といった自己表現活動をさせる。		○書きたい内容を整理して、出来事だけでなく感想も書くように指導する。週末の課題などにして継続して書かせたい。	2学年 ・「日記②」 ・「メールの書き方」	■3行日記を書く
3	英語のしくみ 4 過去形のまとめ	ウ、エ	2			○既習の本文から、これらの文法事項を含む文を探して復習させる。		◆規則動詞と不規則動詞の過去形を繰り返し発音したり書いたりして定着をはかる。
	合計		140					

